

新報

新報

号外

1972

5月23日

発行所

大阪市東住吉区山崎町四丁目
五十八番地 天理教会内

社長は死んだ

岡本 栄

死んでいる

今日の工場は死の町だ

道路は死の町に満ちた

「工場は死んだ」工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

生きがいの工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

あつた工場は死んだ
工場は死んだ
工場は死んだ
工場は死んだ

死んでいる

今日の工場は死んだ

道路の死んだ

死んだ

階段の鉄筋は死んだ

死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

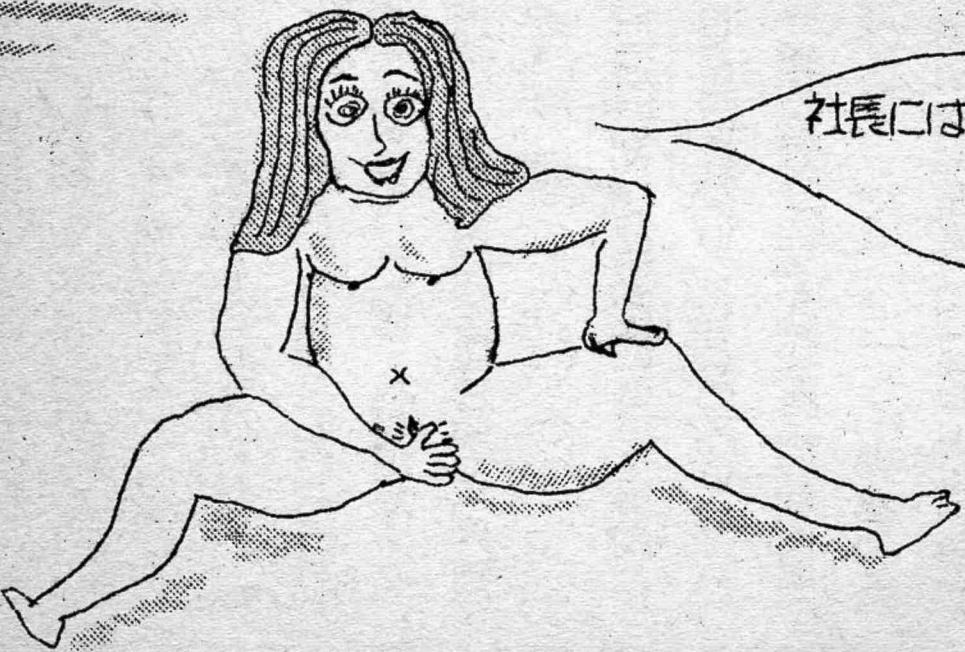
工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

工場は死んだ

社長には死んだ



「戦後」の再建に向けて

榮

本 固

家族とカール

の最後通牒的「不参加宣言」突
然、タリウ「飛翔」の会合に君
は出て来て。僕はいゝ、会
うて重たいよとある。何故なの
かという理由が公にあるのはいゝ
けれども實なる理由ではない
なるとして潜在的に意味し、会の
崩壊を意味する。たゞこれに關係
のない個人的な理由ではないなる
場合でも、その個人的な理由を公
言するのは不可能であるならば
一それまた別の崩壊を意味する。た
から最後の通牒的な「不参加宣言」
はこうして起つてゐる。一體この理由を
みんなに可能な限り詳しく説明し
てほしい。おもしろい詳細さ、そ
の程度は今までに君が各人の
間にどれだけの關係が形成された
か、君がどれだけの門戸を開いて
きたかの、即ち会がどこまで本物
になつてしまふのかといふことだ。

② 家族と血縁　君が昨年、今
の会社で研究の、東京の研究所
の人とは懇話をしてゐたことが相談
した時の録音テープがある。上。
その中の時、母親の思い出の情
緒のある生活場面が時々感傷的な
ところがあることを。「本当に
お父さんとお母さんがね。あのク
ロコを悲くさせるやうな……」
今の僕たちとして家族との連中は
あまりにも根強い。家族帝国主義
という頭の中に入っている人が可
能ならなくともものごとく。僕
なんかもしこの時から家を持つて
家族（祖母・母・兄・私）が共
に持ちこたへようとしたら、同じ
時代、同じ場所、同じ人になる。

でも肝心なところは「家族」についてである。又「僕の心のニュー・ワールド」のなかで、同一の環境におくもの *Winkel* は、どうしてこんなふうか。君が僕に話したのは、一時的にその家族にふりかへたおぼろげを覚えてきたときのことだ。その原因は *Winkel* の *Winkel* の *Winkel* まじか。君が今この血縁なんかに持ち出すのは面白くない、僕の家について考える、父は僕とあったが幼小から同居しておらず、同一の生活体験もなかったからだ。なので小生の時「時々会った」が全然愛も感じない、親近感もなかった。そして死んだ時もあんなにもおぼろしく姿に同情の涙は出たが、それ以上のものではなかった。だから今の祖母は母の実母が死後、後妻として嫁いでいており血縁はない。でも祖母が死ねば、父の死よりも悲しい。涙ももっと流すであらう。これらの体験から僕は自身は血縁なんか全く信用しない、現在僕を感じる家族の若同志のつながりは同一の生活体験によって生れたものと信じている。

それは一つ屋根の下では同じ暮らし、共に喜び、共に喜ぶべき生活の中で形成されたのである。それは家族一人ひとりがあるままの姿を受けしめようとして生れたものである。

③ タルーパー屋のいなか　　今、僕たちに必要なことは家族以外の人同士の連帯の可能性を追求することである。一の観察からタルーパー君との関係を見つめなおすとは、新しい好ましい状態にある使用。

(先の僕の考えからすれば、夫婦の連なりがめのように密接になりつるのは、①性行為によって男女が各人の深奥部を相手に開放することにより、自己を相手に委け出すからであり ②二人が日常生活で共通の生活体験をするからである。)

「君の妻君が幼少の英語塾を興く
と云つた時の」ことを覚えてますか。
「学校時代に学んで英語教育を興
際に生かしたい。」との妻君の主
張に「金もつげのためになら塾を
するな。社会の現実、教育の現状
を直視し、何が必要か考え、そ
れでも教えた」といつのであれば
無料同然の授業料でもよるべしだ」。
と君は猛反対した。そしてそれま
で夫の反対の真意を理解しきれず、
我を張って「妻君にや」と君、
僕二人で夫君の意見の正しさを
納得させた。しかし事件は、単
なる夫婦間の問題として済まされ
ないかも知れない。一歩の僕
ら二人の問題をもちこんで、こつ
こつは「ちやんと世帯をやる問題
をせんばい」に導かれた。こゝで
どう、開明的な態度は好感づけ
るものである。

家族関係にも負けない関係を生
創り出すためには家族をどう考
えている要素 ①開放性 ②共同体
験 をグループに形成していくこ
とが必要である。具体的にはグル
ープ内で討議したが、まず以前
から休刊になっている機関誌「飛
翔」の復刊、開放性・共同体験の
場としての共同製作を提案した。

